

2024年12月8日（降臨節第2主日、C年）

牧師メッセージ

「神の言葉がヨハネに降った」

（ルカによる福音書3:1-6）

司祭ヨセフ太田信三

本日の福音の前半には、当時の社会的、宗教的権力者たちの名前が列挙されています。これから語られる出来事が歴史上の事実であることを示すためだと考えられますが、この記述から当時のパレスチナが野心や欲望に満ちていたことがうかがい知れます。まず、イスラエルがローマの支配下にあったこと。次に、イスラエルに三人の領主がいたこと。そして、本来一人だけのはずの大祭司が二人いること。これだけで、人の思惑が満ち溢れ、混沌とした当時のイスラエルの状況がわかります。そのような状況の只中で、大いなる出来事が起こされます。

「アンナスとカイアファとが大祭司であったとき、神の言葉が荒れ野でザカリアの子ヨハネに降った。」

前半の記述のあとに「神の言葉」が突然現れるところにハッとさせられます。人の思惑の混沌の中に、神の言葉が降ったのです。しかもそれは、権力や権威を求めて人々がうごめく社会の中心ではなく、「荒れ野」のヨハネに降りました。神の言葉が降ったヨハネは、悔い改めの洗礼を宣べ伝えました。

今日の福音ではイザヤ書が引用されています。「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。曲がった道はまっすぐに。でこぼこの道は平らになり、人は皆、神の救いを仰ぎ見る。」これは今日のバルク書にも見られる箇所ですが、「谷はすべて埋められ、山と丘はみな低くされる。」というところはすべて受動態です。つまり、それらは神によってなされる、ということです。主は道を整え、真っすぐにするようと呼びかけますが、谷を埋め、平地にしてくださるのは神なのです。人間は往々にして、「悔い改めて神の方を向こう、主を迎えるために道を整え、備えよう」と決心しても、山や谷に直面すれば狼狽し、曲がりくねったでこぼこ道に怖気づいてしまいます。しかし、そんな私たちであっても、悔い改めて備えようと決意するなら、神がわたしたちを助け、その道を完成させてくださるのです。

主イエスの御降誕を待ち望む降臨節にあって今日、世の権力者たちの声に惑わされることなく、ヨハネの呼びかけを聴き、悔い改めを決意したいと思います。主なる神は必ずわたしたちを助け、曲がったり、でこぼこの道を真っ直ぐにしてくださいます。わたしたち一人ひとりの内にその道が通ったとき、主イエスはその道を通って、私たち一人ひとりのところへと来てくださいます。